

第 7 回 総務民生文教委員会

令和 5 年 11 月 17 日（金）	開会 14 時 54 分
5 階 第 1 委員会室	閉会 15 時 50 分

午後 2 時 54 分 開会

○委員長（三輪田幸泰君）

それでは、ただ今から令和 5 年第 7 回総務民生文教委員会を開会いたします。

なお、3 番 福永委員は遅刻という連絡をいただいておりますので、お願い申し上げます。

○委員長（三輪田幸泰君）

1、兵庫県加西市・丹波市の行政視察についてを議題といたします。

各自、視察の成果等、学んだ点などを述べていただきたいと思います。

順に当たって、加西市から、加西市は子育て支援の取り組みについてということ視察をしてきました。それについて、渡邊委員からお願いできますか。

○1 番（渡邊康弘君）

加西市についてですが、本当に 5 つの無料化というところで、上手に情報発信してるなというのをまず感じました。

瑞浪市においてもやってることもあるんですけど、私の中でこれは更にグレードアップしていくとか、市としても、この規模の予算でしたらできるんじゃないかなというところもあったので、そこら辺を瑞浪市に落とし込んでやっていきたいなと感じております。

また、5 つの無償化以外にも、本当にごみ袋であったりとか、ほかにもそういういろんなことの取り組みをやられてましたので、予算の関係もありますけど、そういったところをしっかりと参考にさせていただけるかなと。

屋内型遊戯施設&テレワークセンター「アスモ」は、本当に面白い取り組みだなと思いました。

これは管轄は違うんですけど、総合施設とかそういったところですので、再編とかそういったところでも提案できる内容だったので、本当に全てを通して非常に参考になる事例が多かったので、移住定住の取り組みとかも含めて、一つ一つについてもう一回ちょっと確認しながら、瑞浪市の規模感に合わせて提案できればなと感じました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

続きまして、2 番 榛葉利広君。

○2 番（榛葉利広君）

加西市さんを視察させていただいて、何でも無料化せんでもいいんじゃないかと議長が言ってみ

えたようなこともあって、というか、もう、うらやましいなと思いました。これだけ無料化にできるのが。

結局、原因は何か探してみると、やっぱりふるさと納税が63億円もあるということで、今日もふるさとチョイスで検索してみたら、家電のワンツートのトースターが5万円ぐらいふるさと納税するともらえると。多分、原価が1万円以上するトースターが手に入ると。10位以内にもそのメーカーの製品が1年間でまだ入ってますので、これはすごいなと思いました。

そういう魅力的な商品があるのが、非常にこの財源にできたということがはっきり分かりましたし、特に前の市長さんがこれを推し進めたということを書いてみえたんで、ちょっと考え方がやっぱり新しい市長さんによって変わってきとることもありますけど、この関西の兵庫、この辺はそういう流れがすごいみたいで東濃でも土岐市がやると瑞浪市に影響する。恵那市がやると瑞浪市に影響するということがあるように、できてきたのかなというふうに思います。

ただ、中には少ない予算でできそうな事業があると思いますので、これはそれぞれ皆さん、一般質問等で訴えていただくのがいいんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

では、4番 奥村一仁君。お願いします。

○4番（奥村一仁君）

5つの無料化がありますけど、僕が一番印象に残ったのは、病児・病後児保育が多かったことです。民間の努力というか、頑張ってくれてるのが大きいですけども、やっぱり当日の朝でも空きがあれば受けていただけるというのは、やっぱり小さい子どもを持つ親にとっては非常にありがたいことやなと思いました。また、もちろん無料であるという部分もすごいと思いました。

もう一つは、保育園の民営化のところで、経営状況の良いところはもう全て民営化している。経営状況の悪いところだけ市が公立園としてやってるっていうのがありまして、それも一つ、今後、瑞浪市でも検討していけるのかなと思いました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

5番 大久保京子君。

○5番（大久保京子君）

私も向こうの議長が、今、榛葉委員がおっしゃったようなことをおっしゃって、やっぱり非常に難しいんだけど、その前の市長の事業を引き継いでやってるんだけど、いかななものかというのは、やっぱり議員間のいろんな考えの違いとかをちょっと耳にしたのか、やっぱりそうなんだというのありました。

それと、病児・病後児に関しては、やっぱり市民は無料であってというところとか、それはやり方が違うので納得なんですけれども、利用に関しても、利用しやすいような感じでやってみえるのも、それがすごい私はいいなと思いました。

あとは、それぞれ瑞浪でもやってることもありますので、もうちょっと進んだようなところは、瑞浪もぜひ学んで、形になっていったらいいかなと、それに努力していきたいなと思いました。

○委員長（三輪田幸泰君）

6番 加藤輔之君。

○6番（加藤輔之君）

今、それぞれの意見どおりで、私はこれをやることによって人口が絶対増えると。結果としていい数字が出てくるはずだというふうに思っておったら、全くその辺が期待が外れたわけで、これは瑞浪市でもどんどん無料化することによって、外から人が入ってくる期待をずっと思ってるわけやけども、やっぱり加西であれだけやって人が増えんというのは何でやろということは、違うんやろうなと思って、便利が悪い、山の中やし、そういう点でやっぱり地の利というのが大きな影響を与えるかなというふうには思いました。

それで、例えば、今、陶の町でも空き家・空き地について、陶の空き地はただでも要らんという意見が多い。そうすると、加西でもそういう同じような雰囲気があるんじゃないかというふうに受け止めてきたんで、一概に何でもかんでも、ただにすれば人が増えるというものは、幻の期待だったなと思いました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

7番 棚町 潤君。

○7番（棚町 潤君）

皆さんがほぼ意見を出していただいたので、出なかったところで言うと、プロモーションに関して上手にやられてるなという感覚を得ました。700万円ぐらいの予算をかけて、Googleの広告とインスタグラムでの広告を、ターゲットを20代から30代の男女、兵庫県、大阪府というふうにしっかりと絞った上でPRをしていると。これはなかなか瑞浪市では行われていないなという中で、今後、こういったPRも瑞浪市で、シティプロモーションも取り入れていかなきゃいけないかなというふうに思いました。大体700万円ぐらいのPR費で、3カ月間、広告が打てるということだったので、これであれば瑞浪市も打てるんじゃないのかなというのは感じました。

あと、これちょっとコンセプトは逸脱するかもしれないですけど、やっぱり僕が一番印象に残ったのは、都市計画税がゼロということでした、これがびっくりしたんですけど、加西市は来年度から都市計画税がゼロだと何ですかと聞いたら、下水の大体99%が終わったと。もう計画はし終わりました。なので、都市計画税は徴収しませんという発想だったんですけど、そういう考え方があるんだと思ったのと同時に、北九州で片山先生の話の中で、市議会として税率を動かせるという話を聞いたんですけど、それもちょうと併せて吟味したりして、こういう発想もあるんだなというのをちょっと感じました。

ただ、最初にふるさと納税の話で榛葉委員が触れられたように、65億円程度のふるさと納税があるからできることだろうなとも併せて思いましたけど、感想としては、非常にいろいろと参考にな

ることも多かったんじゃないかというふうに感じています。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

ありがとうございます。

それでは、私からですが、まず一番思ったのは、おむつの無料配布をコープさんと提携してやっておりますが、あそこの駅を下りて、大きなビルをどっしり構えられたコープさんですので、相当、機構的に上位のところにおるのかなというようなイメージがありました。

これも瑞浪市の1万5,000世帯だけじゃなしに、瑞浪のコープと言ったら、多治見に支店がありまして、多治見、土岐、瑞浪を提供エリアにしとるところがありますので、その辺でやれば、ある程度、数も増えるのでできるんじゃないかなという、ちょっと勝手な皮算用をしたところで、瑞浪だけでやってくれと頼まれたときに、振られる可能性があるのかなと、土岐市とか多治見市で合わせれば20万人切るぐらいな人口になっておると思いますので、そこら辺で導入すれば、少し数が増えて、コープさんも販路拡大になる、その辺は連携してやってくのも一つと思ったところです。

あと、それこそ皆さんおっしゃったように、ふるさと納税の63億円強が、その7割が一つのオーブントースター的なものであるといっても、あと20億円がほかのもので賄われとるという、この辺のふるさと納税の力を見せつけ、すごいなというふうに思ったところでもあります。

子育てについては、おむつの無料配布については少し研究できるかなというのは思ったところです。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

言い残したことはありませんでしたか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、丹波市に移ります。

丹波市は、2つありますが、まず、複数学年複数担任制についてと、あと、丹波市の教育資源を活用した教育、丹波竜のち一たんの館について、ご意見をお願いいたします。

1番 渡邊康弘君。お願いいたします。

○1番（渡邊康弘君）

複数学年複数担任制、小学校が中学校のように先生が教科担任となる形で、また、大体、1カ月ぐらいのサイクルで先生が代わっていくということだったんですけど、非常におもしろい取り組みだなというのは思いました。

ただ、保護者の方の中には先生はずっと一緒がいいよと思われる方もいるので、そこら辺をしっかりと瑞浪市のそういった家庭における親の方がどう思われるというところで、複式になったりとかいろいろ変わったときに、どうやって対応していくのかをしっかりと調べていかなあかんと感じました。

先生の働き方改革というところにおいては、非常に大きな効果があり、例えば、数学なら数学の

先生、音楽なら音楽の先生になることで、授業の準備をするというところが非常に時間が削減できるし、その時間を各先生たちが意見交換できるということと言われてて、その意見交換をするための時間が増えたけど、それが削減できた時間よりは微々たるものということで、説明された先生が物すごい熱い熱で語られたんで、僕は学校にいたかったと言うぐらいの思いが出てきた事業なのかなということを感じたので、瑞浪市でも可能性というところで検証していく必要があるのかなというのを感じました。

丹波竜に関しては、地元の教育資源を活用した教育に関しても、本当にコミュニティ・スクールの一歩先を行った教育のあり方なのかなと感じました。本当に市全体でこういうことを学んでいて、自分たちの市を知る、市に対する愛着を学んでいくというところなので、こういった取り組みも、学校単位も大事かもしれないですけど、市全体でこういうことを学ぶことも今後の課題としてしっかりと研究していかないといけないかなと思っております。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

2番 榛葉利広君。お願いします。

○2番（榛葉利広君）

まず、視察のときに私が最初の挨拶でおかしなことを言ったものですから、叱られてしまいました。やっぱり先生が作られてるのでちょっと難しいですね。なかなか理解が、ぱっと見ただけでは分からなかったで、申し訳ないです。

もちろん、話を聞けば分かったんですが、これ視察を受けた後、うちの娘なんかにも聞いてみると、「複数学年複数担任制度あるけど、どう」と聞いたら、「ああ、そういうのは聞いたことがある」とは言ってました。

ただ、東濃近辺でそれをやってるのは中津に一つだけあるとか。南中学校か、南小学校ですか。何かちょっとそういう情報を教育委員会からちらっと聞きましたけど、なかなか、瑞浪市ですぐやれるかという、そういうことでも今のところはないみたいです。

ただ、やっぱり先ほど言われたように、教師の働き方改革、これは娘からも毎日のように言われますけど、何とかしてという話ですけど、大変やと。残業代もつかないというようなことで、そういうところが発端になってやられたのかなという気はしています。

あと、丹波竜に関しては、瑞浪市の教育委員会ではないけど、化石検定をやってみたりとか、いろいろ取り組みはしておられるんで、似たようなところがあるのかなと思いますが、そこをしっかりと学校で取り組んでみえるということは、これは見習うべきところもあるのかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

4番 奥村一仁君。お願いします。

○4番（奥村一仁君）

最初、間違えてまして、複式学級のことだと聞いてたらちょっと違ったんで、うんと思っていたんですけど、ただ、結果的に複式学級にもかなり生かせるんじゃないかと思って聞いてました。

この導入の背景と目的というのは、そもそも子どものためというふうに資料には確か書いてあったと思うんですけど、成果としては、学校を休みたい子が減ったということ等があったというふうにおっしゃってました。ただ、保健室に登校する子とかは特に減ってないということもおっしゃってました。

結構、一番大きいのは、導入の目的とは違うんですけど、やっぱり先生の働き方改革という部分でかなり大きな成果があるんじゃないかということでした。

中学校になった子の追跡調査等もしていて、やっぱり中学へ行くと、こういうスタイルですので、小学校の頃から慣れているのが良かったとか、小学校の頃からいろんな先生と関わることができたおかげで、いろんな考え方を学ぶことができることもおっしゃってたので、結果的にこれは良い制度なんじゃないかと思って聞いておりました。

恐竜のほうは、ふるさと学習に cand やられてるということで、もともとはこの地域の、愛着心とか、そういう醸成のためにはすごくいいことではないかと思いました。

あと、やっぱりただ学ぶだけではなくて、日本恐竜協議会という何か自治体のネットワークとおっしゃってましたけど、そういうところの小学校と交流したりとか、自分で小学生があんなことをほかの学校にプレゼンするんですよ。何かそういうようなこともやられてて、非常に教育にはいいんじゃないかと思いました。

あとは博物館ですけど、瑞浪の化石博物館は基本的には展示がしてあるだけで、物販とかは特にないんですけど、やはりお金を落とすシステムがやっぱり観光資源になるかと思うんで、お金を落とすシステムは少しでもなきゃいけないのかなというふうには思いました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

ありがとうございました。

5 番 大久保京子君。お願いします。

○5 番（大久保京子君）

複数学年複数担任制については、皆さんおっしゃったような感じなんですけど、私がちょっと質問したのが、やっぱり子どもは10人いれば、10人いろいろあって、先生と密に話をしたりとか、そういう子がいるんだけど、大変ですよという話をしてたら、お昼休みとか、先生方もちょっとほっとするような時間を割いてでも、そういうふうに子どもたちと一生懸命コミュニケーションを取るといえるのか、それで、その5人なりの先生たちがいつも情報共有をして、子どもたちをしっかりと見てるといってお話をされたときに、ああ、そういうあれもあるんだな。でも、働き方改革からすると、やっぱりちょっと苦しいところも部分的にあるのかなと思ったりもしました。

でも、これは瑞浪でもできたらいいかなと思いながら、さっき、榛葉委員もおっしゃってましたけど、なかなか瑞浪で保護者さんたちのご理解とか、いろんなところが課題に出てくるのかなと思

って見ておりました。

それと、丹波竜のことなんですけれども、たんばふるさと学だと、学校から学校支援コーディネーターを依頼して、それでゲストティーチャーとして地域の詳しい人に、子どもたちに話をするのは、本当にやっぱり地域の人もいいし、学校に入っていていただいて、子どもたちと一緒に地域のことを教えて学んでいくんだと。将来は市に貢献していける人材育成につなげたいということをおっしゃってましたんで、これは一つ良いことなんだなと。

そうすると、例えば、瑞浪で言うと、釜戸小学校なんかがちょっと率先してやってくれると非常に、あそこで化石が出たことがまた生きるかなとも思いました。

○委員長（三輪田幸泰君）

ありがとうございます。

6番 加藤輔之君。お願いします。

○6番（加藤輔之君）

最初に複数学年複数担任制ということで、思っと思ったのと違うなと思っておったんやけども、奥村委員も言ったように、今、目指しておる複式の単学級で、1年から2年、3年から4年、5年から6年で先生が1人ずつおって、加配教員も1人おって、あと、校長がおって、その辺はちょっと分からんけど、そういう項目を、構成員であるやろうということで、1人の先生が2学年を持つというのは、いかに大変かということをやっと思っと思って、そしたら、こういう方法なら先生も1人でできるんじゃないかというふうに思いました。

あと、加配の先生も含めてうまくやると、複式の単学級でも教育成果が上がるんじゃないかということを非常に感じたわけですので、今後、瑞浪でも陶小学校、日吉も釜戸もなる可能性があるんで、この辺をしっかりと研究して提案していくべきやというふうに今、思っております。

あとまだ、学生の成長がまだ出てへんので、あくまでこういうふうで行くならばという前提で今、調査をしておりますけども、それに大いに参考になったというふうに思います。

あと、情熱的な先生が非常に説明してくれて、一つはもう専門的で、これは現場教師でないと分からんなと思って聞いとったわけですけども、そういう意味でやっぱり、教員向けの研修会だったような、一方ではしました。

あと、何よりも職員室へ子どもたちが気軽にわんさわんさと集まってくるという現象があったということで、やっぱりこれはすばらしいことやなと思って話を聞いておりましたけど、だから、単純に同じ先生に教えてもらったほうが良いという人もおるけども、そういうプラス面が強調されたので、非常に心を打たれてきました。

あと、丹波竜については、会館のほうで、出てきた化石について、やっぱりその時代によって、場所によって全く違うものが出てくるんやなという。それで、瑞浪にある、丹波では何であんなやで。特にこはくが全然あれへんというような話を聞いて、やっぱり海の底だった場所やないとか、その辺がちょっと。それか時代によってやっぱり違うんだなという。別の意味でいい勉強をさせてもらったというふうに思います。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

ありがとうございます。

7番 棚町 潤君。お願いします。

○7番（棚町 潤君）

複数学年複数担任制について、4、5、6年生を5名の先生で受け持つと。担任が1カ月ごとに代わっていくという内容だったと思うんですけど、一番心配したのは、僕、質問もしましたけど、障がい児童であったり、いじめがあったり、そういった児童があったときの対応だったかなと思っています。

やっぱり複数担任制になると、責任が分散されてしまうというところがあって、そういうところが今のケアできるのかがこの制度の肝かなということを思いました。なかなか質問するのも難しく、ちょっと一瞬止まってしまいましたけど。

ただ、やっぱり皆さんおっしゃるように、先生方が、算数なら算数だけをしっかりと突き詰めてやればいいものですから、時間を節約できるところはありますので、やっぱりそういった面では働き方改革に資する取り組みかなというふうに感じました。

丹波竜についてですけど、まず僕が会館で思ったのが、やっぱり恐竜は良いなという。正直な話、化石より恐竜のほうが子どもたちも良いかなというのをちょっと感じましたし、展示の仕方を取ってみても、やっぱり瑞浪市の化石博物館よりは新しい施設ということもあって、充実してたかなというふうに感じます。

先ほど、奥村委員が言われたように、お土産なんかもあったりして、しっかり、ある一定、お金を落とす仕組みができていたかなと思います。

まあ、化石博物館も50年ぐらいたってるので、僕と同級生なものですから、そろそろ考える時期かなというふうに思いました。

あと、丹波のふるさと学については、地域の人たちに、ゲストティーチャーということで、大久保委員が、さっきのことをおっしゃってましたけど、地域の方にそういう先生になってもらって、子どもたちに丹波竜の学びを提供していただいて、シビックプライドの醸成というところにつながってくるのかなと思うんですけど、瑞浪市で言うと結構、語り部の会だったり、瑞浪市の保存会なんかもあったり、ほかにいろいろ保存会があるので、そういったところが、これからコミュニティ・スクールなんかで連携する中で、学校教育の中に入り組んで込んでいくということにこれからなっていくと思うので、やっぱりこういったところとしっかりと連携できるような仕組みを考えていかないといけないのかなというのは思いました。

以上です。

あと、竜学というのがありましたね。これはおもしろいと思います。

丹波の子どもたちを恐竜の関係する自治体に派遣する仕組みだったと思うんですけど、これはおもしろい。化石検定に匹敵するおもしろさやなと思いながらいました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

ありがとうございます。

私の意見です。一応、複数学年・複数担任制については、ちょっと私も勘違いしているところがありまして、複式のことかなと最初、それで挑んだら、ちょっと違っとったということで、恥ずかしい思いをしたんですけど、お話を聞いて、先生の働き方改革になるのがとても大きいメリットではないかと思っております。やっぱりこの丹波市は、この学校だけなんですけれど、それでも先生らが遅くまで残業して、明日の課題を作つとるということがないというのが、やっぱり先生も人の子の親という方もおいでですので、そうすると、そこは家庭は、先生方が今までやったと思うんですけど、それがなくなるというのがとてもいい環境づくりになっていくんじゃないかと思ったところです。

あと、丹波竜については、やはりうちのデスモ君やなんやかんや、もう少し歴史がある、もっと早い時期にああいうふうな、それこそ今、棚町委員がおっしゃいました、50年前からやっておるところなんですけれど、ちょっとぱっと見比べたときに、アピールの仕方が悪いのは誰のせいかと思ったのがありまして、やはりデスモ君というキャラクターなんかは、それこそ今の「くまモン」とか、「ふなっしー」がおる前からああいうキャラクターでうちは作っておって、立体化されてないんですけど、デスモ君なんか封筒に貼ってるだけですので、あれをもう少し使える工夫はなかったのかなというのがこれからの課題じゃないかと思っています。

キャラクターのかぶりものを活用していくのも一つの観光資源じゃないかと思いました。ですから、これからデスモ君と今度、釜戸の勝手に名前つけちゃいましたパレオちゃんを併せて、それこそ化石はマニアにはたまらんもんがありまして、マニアの心をくすぐるようなものも、ある意味誘客を作るもたかなと思いますので、まず教育委員会でかしこまって論文を作るだけじゃなしに、それを観光に生かせるように、奥村委員もおっしゃいましたように、少しでも売らんかなというようなこともできれば、また一つの瑞浪市の魅力になるかなと思ったところです。

先ほどおっしゃった竜学についても、向こうの学芸員さんがおっしゃっておいりましたけれど、その業界ではちょっととんでもないパレオちゃんだったという話ですので、そういう専門学的にいいことは、もう少しアピールして、観光に生かせたらと思ったところです。

先ほどの竜学の話で、それぞれ地域のところでネットワークを作って、チラシも見ましたが、福井の恐竜博物館みたいなのところに社会見学に行くようなことも書いてありましたけど、自分だけでやるんじゃないしに、そういう同じようなものがあつたときに、そうやってネットワークを作っていくのも一つのプレゼンの仕方かなと思ったところです。

あと、たんばふるさと学なんですけれど、これはお話を聞いてたら、たんばふるさと学があつて、サポーターがおられて、あとでうちらがやつとるコミュニティ・スクールが後でついてきても、原型があつたので簡単にコミュニティ・スクールができた話を聞いたときに、すばらしい取り組みだと思って、今、うちのコミュニティ・スクールも単発で日吉なら日吉、釜戸なら釜戸、稲津なら稲

津の8つの地区で小学校単位でやっとするだけで、中学校でもやっとするんですけど、それをちょっとまとめるような格好で、それこそまねごとなんですけれど、瑞浪学みたいなのも継承していけるように。

今日の新聞か昨日の新聞に日吉で、ちょっと詳しくは言えませんが、子どもたちに木をからせたようなこともやっと思ったのも、とてもいい試みかなと思って、一時は危ないからやるなというような空気が流れとって、子どもは一切、手伝うんじゃないよというような空気があったような覚えもありますので、やっぱり余り大きなけがをしてもらっても困りますけれど、かまわせて自分なりにやっていく体験を作っていくのも、これから大人の責任かなと。今のコミュニティ・スクールじゃできるところを地域で背負っていってもらうような形になったときに、やっとなんて学みたいなの母体があると、瑞浪がまた次のステージに行けるかなと思ったところです。

以上です。

それでは、今、加西市と丹波市の行政視察についてお話いただきましたが、これを今、まとめさせてもらって、また報告書を作らせていただきたいと思います。

福永委員はまだちょっとおいでいただけてませんが、福永委員にはレポートとして提出していただきますので、またそれを合わせて、それを踏まえて、うちの委員会としての報告書なりを作成して発表させていただきたいと思います。

6番 加藤輔之君。

○6番（加藤輔之君）

今まで、こういう教育委員会について追及した視察はあったんやろうかな。

今回、専門的やなと思ったけど、余り記憶にないが、榛葉委員、あった。

○2番（榛葉利広君）

なかったかもしれんね。

○1番（渡邊康弘君）

私も福祉という課題があったので、何かいい方法、手法がないかなというところで情報を探していく中で、ここに行きあたって、それで、たんばふるさと学もおもしろいことやってるんですけど、兵庫県がすごい子育て、教育を熱心にやってたので、ちょうどそういうところがないかなと思って、ここに行き当たった感じですね。

丹波以外でも、神戸でも取り入れてる。

難しいことだと思いますけど、学校の通信でも、棚町委員が言われたような指摘で、責任の所在であったりとか、丁寧にみてもらえるのかなとか、そういった保護者のアンケートを取りながら、12月の学校紹介や外部評価も取って、成果を明らかにしていくということで、学校自体がそれに取り組んでいて、今後の情報としてもすごい、それが出るまで楽しみだなというのはあります。

ただ、こうやって視察をする中で、こういうことをやったのは、今までも本当に自分の記憶では余りないですね。どの方も子育て関係だったりとか、まちづくり関係だったと思うので。

○6番（加藤輔之君）

奥村委員、しょっちゅう教育問題を取り上げとるけど、どうやったんや。感想は。

○4番（奥村一仁君）

難しかったですけど、分かりました。やっぱり一人の先生で、今、35人ですか。35人を全員を見て、全ての科目をやるのは、すごくやっぱり先生の負担ですし、負担に感じながらやってると、生徒にとってももしかしたら分かりにくかったりする部分があるかもしれないですけど、やっぱりここを分担できることは分担して、そうすると先生の得意分野を持つことができるというのと、大きい問題を一人で抱えずに、6人で1チーム、6人で相談しながらできるという面では、すごくいいシステムだなと思って聞いてました。

○2番（榛葉利広君）

委員長。

○委員長（三輪田幸泰君）

はい。

○2番（榛葉利広君）

教育問題と、統合のときに、僕らが議員になった頃に長野へ行ってます。

○議会事務局長（梅村修司君）

ちょっと今おっしゃった、記録があります。ちょっと今言おうかなと思って。平成21年に長野県の佐久市と飯山市、それ以外、給食費の無料化と通学費の無料化について、平成28年に兵庫県の相生市へ、民生文教委員会は、最近で言いますと。

それ以前は平成21年で、それより前になると、ちょっともうないです。

以上です。

○6番（加藤輔之君）

棚町委員、よう分かった。

○7番（棚町 潤君）

内容はよく分かりまして、複数担任については、先ほども言いましたけど、責任が分散されるので、逆に言うと授業への責任も分散されるし、障がいを持った子への責任も分散されるし、ある意味、先生方としては柔軟にできるのかなと思ったんですけど、ただ、心配だったのが、運動会とかになったらどこを応援するんか、そんなような不安も、見とってこれどうするんかなって思いながらやりました。

1組か2組かどちらを応援するという問題が出てくるんじゃないかなとちょっと感じます。

○4番（奥村一仁君）

瑞浪市は、加配の先生をどうやって使ってるんですか。加配の先生は、基本的に学年にプラス1人じゃないですか。

だから、学年に1人がこう持つちゃうと、あくまでサポートという感じですけど、加配の先生を主体に巻き込んでやっていけるんで。

○7番（棚町潤君）

今、だから学校によって、スクールサポートスタッフの先生という方が大分、資料を作ったり、そういうのでケアしてるのかなという感じですけど、そういったところに関しても、このやり方のほうが柔軟にできるかなと思いましたね。

○2番（榛葉利広君）

あと、複式になると減る。そうなったときにどうするか。そのスクールサポートスタッフをうまく使うのか、臨時講師にお願いするのか、そういう動きがあるけど、市で雇っていただくとか。

○7番（棚町潤君）

ただ、問題は市で雇うとなると、市の給料体系になるのが問題で、今、普通の先生が県職員と同じ給料体系になると思うので、その辺の差が出るのがまず問題じゃないかなと思いますよね。

○委員長（三輪田幸泰君）

福永委員、加西市の子育て支援の取り組みについて視察に行ってきましたね。丹波市のほうは複数学年複数担任制と丹波竜を生かした教育を勉強してきたと思うんですけど、この3つについて何かありましたら。

まずは加西市の子育て支援について思うことを申してください。

○3番（福永泰子君）

5つの無料化とかいうのは、やっぱりあるとありがたいと思うので、市でもし取り組みが可能であれば、子どもを育てるのにあれだけの金額を保障してもらおう。あれは多いとか少ないのかって考えると、あれかもしれないですけど、加西市のほうはコープさんと提携してやってみえるというので、ああいうふうにやってくださる業者さん、瑞浪だったら同じようにコープなのかなとかいろいろ考えたんですが。

周りの方にも、ほかでこういうことがあるんだけどどう思うということも、ママ友とかに聞いても、「そりゃ、やってくれるならありがたいな」と、やってくれることに関してそうやって。ただ、ちょっとお金がかかる、今度、財源の話にはなってくると思うんで、やりたい、やってほしいばかりはどうかと思うんですが、それがあるかないかで、じゃあ、瑞浪市に住むか住まないかということに対しては、一概にというのはあると思うんです。

ただ、他市に対して、うちはこういうことしてくれとるとよと、自分が住んでる町の自慢的な形としては結構、うれしいかなみたいな感じを皆さん持つてる感じもあったので、私としても、特に近隣、土岐、多治見、恵那、中津、東濃5市の中で、すぐ隣の土岐市が結構、教育費が安いイメージが何か前からあって、教育費は小・中ではなく、幼稚園の時点にかかる。今は無償化とかになったんですけど、そのときやっぱり、土岐市のことを私らも聞いたときに、「いいな。同じように保育園、幼稚園に預けてて、土岐市はそれだけで済むんだったらいいな」と思ったので、逆にほかの東濃5市でやってないことを瑞浪が先駆けてやれば、やっぱりインパクトもあって、そういう意味でPRというか、感じればいいのかと感しました。

○委員長（三輪田幸泰君）

続きまして、丹波市ですね。複数学年複数担任制と丹波竜を生かした教育について、2つですが。

○3番（福永泰子君）

複数担任制は、あの日説明を受けて、家に帰ってみて資料を見てもちょっと理解が余りできなくて、複数まとめた上で、複数の先生で見る仕組みになることがザクッと分かったんですけど、瑞浪市としては、それをというよりも、複式にしたときに、それが何かをできるところがあるのかなということを自分なりに考えてみたんですが、そこに関してはちょっとまた違うのかなというところも結論に至ったので、人数が少ない学校に対して、複式になったときのことはまた別で考えていかなきゃいけないのかなということを思いました。

地域資源を生かした教育について、ちーたんの館もすごい、現在進行形で動いていってる。瑞浪の化石博物館だともう出来上っちゃってる感じで、新規に行かれる方が少ないんですけど、あそこだと今、化石、ここまでできました、掘りましたみたいな感じで、常に更新されてるのが、じゃあまた来月来てみようとか、リピーターを生み出せるので、瑞浪もそういったリピーターを生み出せるような何かを考えていかなきゃいけないのかなと。

あと、竜学っていう市内の子たちがほかのところへ、恐竜について自分でまとめたレポートを伝えるということで、私、釜戸なんで、釜戸というところは、パレオパラドキシアが出たこともあって、それについて地元の人ともちょっとお話ししたんですけど、おもしろそうだという反応が返ってきて、やっぱりコミュニティ・スクールとかも絡んで、自分たちで自分たちの地元のこういうことを勉強して、それについてのこれも、釜戸小学校から瑞陵小学校、土岐小学校、明世小学校、稲津小学校とか、ほかの小学校に伝えることで、何も恐竜に限ったことじゃなくても、今、コミュニティ・スクールもやってるんですけど、コミュニティ・スクールは結局、学校の中だけで終わってる感じもあるので、それを自分のところのコミュニティ・スクールについてよそに発信することで、改めて考えを深められて、瑞浪市内でお互いの交流もできるのかなっていうのがすてきな取り組みだなと思ったので、瑞浪市もそういうところを取り入れるといいなということを思いました。

以上です。

○委員長（三輪田幸泰君）

はい、ありがとうございます。

それでは、以上で行政視察についてを終了いたします。

○委員長（三輪田幸泰君）

次に、2、その他を議題といたします。

何かありますか。

2番 榛葉利広君。

○2番（榛葉利広君）

今日は委員会でしたよね。一応、正式な委員会ということやし、遅刻してみえたんで、謝罪や理由の説明とか、けじめはつけてもらった方がいいと思うけど。

○3番（福永泰子君）

先に遅刻の理由等、皆さんに謝罪すべきでした。すみません。

今日は、子どもの参観日と送迎の時間がかぶってしまいまして、代わりに頼める者がいなかったものですから、委員会の時間とも被ってしまいまして、遅刻をしてしまいました。すみませんでした。

○委員長（三輪田幸泰君）

私も話を伺っておりましたけど、理由まではちょっとこの場では発表しませんでしたので、申し訳ございませんでした。

あとはよろしいですか。

あと、Dropboxに丹波市さんの複数学年複数担任制についての説明資料をデータ送付していただきまして、Dropboxに入れてありますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

あと、それは外部秘として委員だけの資料としてお使いください。よろしくお願いいたします。

○2番（榛葉利広君）

一部、黒塗りになっとるみたいですけど、なんか著作権の問題か何か。

○委員長（三輪田幸泰君）

そうですね。画像とかが表に出せんのと、あと、部外秘ですので、ご自身の資料として使うだけということで、配布は絶対しないようにお願いいたします。

ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（三輪田幸泰君）

では、ほかにはないので、これをもちまして、令和5年第7回総務民生文教委員会を閉会いたします。

ご苦勞様でございました。

午後3時50分 閉会